

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-2	利用者が主体性を持って日常生活を楽しく快適に過ごせるような取り組みを行っている
タイトル①	メンバーミーティングを定期的に行い、利用者の主体性や自己決定を尊重している	
内容①	支援の基本方針として、「利用者の視点で支援を行ない、利用者が安心して暮らし、自分のことは自分で行えるようになり、自立したいと思っている気持ちを尊重する」とこととしている。毎月メンバーミーティングを開催し、職員が議題を提出し、それに沿って利用者が司会を務めている。ミーティングでは利用者の近況報告や新規入居者の紹介をしている。食事に対する希望を聞いたり、体調管理等について相談を受けることもある。職員の勤務予定や服薬情報等についても伝えている。職員は利用者の主体性と自己決定を尊重し、適切な支援に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	利用者の状況に応じて、生活上の支援を行っている
タイトル②	利用者の自立生活に向け、楽しみながら出来る家事学習会を開催している	
内容②	通過型では、入居時から退居後の一人暮らしを想定し、生活面・健康面・社会生活面での自立につながる支援を行っている。3～4ヶ月に1度、利用者の部屋を訪問して、生活状況を聞き取り、確認している。また、滞在型でも月1回利用者の居室を訪問して、部屋の状況等をチェックしている。利用者によっては掃除の仕方がわからない課題もあるため、家事学習会を開催し、掃除の仕方等について学んでいる。さらに、利用者が楽しく参加できるようにホットケーキ作り等の調理実習も行なっている。その際には、調理器具の洗い物や片付け方なども学んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	利用者保護(2)	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている
タイトル③	虐待防止のための組織的な取り組みを実施しており、職員の意識を高めている	
内容③	虐待防止マニュアルが定められており、法人全体で虐待防止委員会を設置し、定期的に行っている。サービス管理責任者を虐待防止マネージャーに任命している。委員会が中心となって虐待防止チェックリストを年2回実施し、その結果を職員にフィードバックしている。職員が講師となって虐待防止研修も実施している。東京都の虐待防止研修を受講した職員が講師となって、非常勤職員を含む職員全員を対象として実施している。虐待防止に対する職員の意識を高めている。また、法人の職員倫理綱領を定めており、利用者の主体性を尊重した支援をしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者支援に関する基本的な考えを職員間で共有し、利用者各自のペースを大切にして、落ち着いて過ごすことができる環境を提供している
	内容	当ホームでは、滞在型と通所型の二種類のホームを運営している。職員は利用者の主体性を尊重し、必要以上に支援しすぎないという考えの下、利用者の生活を見守っている。居室には、お風呂、トイレ、洗面室が独立しており、キッチンや冷蔵庫、電子レンジ、エアコン等の家電が整備されている。利用者は自分の好みに合わせて居室を整えており、他者の存在を気にすることなく、自分のペースで過ごすことができる。職員も利用者の主体性を尊重している。利用者各自のペースを大切にしながら、落ち着いて過ごすことができる環境を提供している。
2	タイトル	利用者ができることを探して個別支援計画の目標を設定し、利用者とともに振り返りを実施してより良い支援につなげている
	内容	利用者との個別面談や、日々のやり取りを通じて意向や希望の把握に努めている。把握したニーズに基づいて個別支援計画を作成し、6か月の長期目標と、3か月の短期目標を設定している。目標設定に当たっては、利用者ができることを探していくことに主眼を置いている。本人が希望する場合にはその意思を尊重し、やってみて上手くいかない場合には新たな目標に修正している。モニタリングの結果、新たな支援が必要であれば、その内容も記載している。サービス管理責任者、担当職員、利用者本人の間で振り返り、より良い支援につなげている。
3	タイトル	入居中から退去後の生活を想定し、地域のサービスや社会資源と連携し、利用者が地域とつながっていけるように支援している
	内容	通所型の利用者については、入所中から退去後の一人暮らしを想定した支援が行われている。訪問看護事業所、社会福祉協議会の地域福祉権利擁護事業、社会福祉課の生活保護係、移動支援事業所、日中活動事業所等の関係機関と必要に応じて情報交換している。さらに、地域の図書館やボランティアセンター、スポーツセンターなどの地域資源を利用できるようにするため、同行しての支援も行なっている。その際には、スーパーや公共施設の場所を確認するなど、利用者が地域で生活するために必要な情報を提供している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	現在実施している防災対策に加えて、実践に役立つ事業継続計画を策定していくことに期待したい
	内容	事業計画とあわせて職員体制や備蓄品のチェックを行うなど、災害発生時に備えている。防災計画を作成し、定期的な防災訓練を実施し、利用者も参加している。防災学習会も開催している。一方で、事業継続計画について未策定となっており、今後策定する予定としている。ハード面で想定される被害と対策、再開に至るまでの職員体制や利用者への対応など、必要な事項について検討を進めながら、実践に役立つ内容として計画を策定していくことに期待したい。
2	タイトル	ヒヤリハットの効果的な活用や医療情報カードの再開など、利用者の安全向上につながる取り組みについて検討していくことに期待したい
	内容	事故予防・再発防止への取り組みとして、ヒヤリハット報告書の運用を行っているが、ホームでは、その活用において改善の余地があるとしている。ヒヤリハットの提出強化期間を設定したり、ヒヤリハットの内容を集計・分析して傾向を把握するなど、より効果的な活用方法について検討していくことに期待したい。また、以前に作成していた、医療情報カード（利用者各自の病気や服薬内容を、救急搬送時などに適切に伝えるためカード）についても再開を検討しているため、その進展に期待したい。
3	タイトル	非常勤職員とのコミュニケーションの機会を増やし、業務に対する思いを聞き取る機会を設けていくことに期待したい
	内容	様々な業務を担っている非常勤職員がいるが、非常勤職員によっては、利用者と直接かかわる機会が少なく、月1回の職員会議や研修等への参加がほぼない状況の職員もいる。コロナ禍で、職員の親睦会も自粛されているため、上司との意思疎通を図る機会が少なくなっている。ホームでは、今後のより円滑な事業運営のために非常勤職員の業務に対する思いや意向を聞く必要性を感じている。研修会等や面接等の機会を通して、非常勤職員の職場に対する意見や提案等を聞き取る機会を設けていくことに期待したい。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル①	利用開始前に、利用者本人に加えて支援者からも情報を収集して受け入れに備えている	
内容①	利用前に必ず見学に来てもらい、案内文書を渡して、利用料金、利用方法、持参するもの等について説明している。利用希望者は、相談支援事業所などの関係機関から紹介されてくることが多くなっているため、利用希望者本人に加えて紹介者や家族にも来てもらっている。利用申込書を利用者本人と紹介者、それぞれから提出してもらっており、紹介者用の申込書には、病歴・病状、生活歴、家族状況、経済状況、体調が悪い時の様子と対処法などが記載されている。これらの書類を参考にしながらアセスメントをして、受け入れに備えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-2	利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援方針を作成している
タイトル②	利用者各自の希望を踏まえて必要な支援を行い、チェックアウト時に確認をしている	
内容②	利用者の視点に立って支援し、利用者の自立を阻まないことに配慮をしている。利用者各自の利用目的に沿って、必要な支援をしている。一人暮らしのためのステップという目的での利用が多いため、自由に過ごしてもらっており、職員は様子を見守っている。利用時の状況や支援内容については、サービス提供記録に記載している。「ゆっくりと過ごすことができたか」、「食事はちゃんと食べていたか」、「薬は飲めたか」等について、職員だけでなく、利用者にも確認してもらっている。チェックアウト時に、必要に応じて次回の利用にもつなげている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	利用者保護(2)	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている
タイトル③	虐待防止のための組織的な取り組みを実施しており、職員の意識を高めている	
内容③	虐待防止マニュアルが定められており、法人全体で虐待防止委員会を設置し、定期的開催している。サービス管理責任者を虐待防止マネージャーに任命している。委員会が中心となって虐待防止チェックリストを年2回実施し、その結果を職員にフィードバックしている。職員が講師となって虐待防止研修も実施している。東京都の虐待防止研修を受講した職員が講師となって、非常勤職員を含む職員全員を対象として実施している。虐待防止に対する職員の意識を高めている。また、法人の職員倫理綱領を定めており、利用者の主体性を尊重した支援をしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	市内で唯一の精神障害福祉の短期入所事業所であり、様々なニーズに応じており、職員も支援の考えを共有して利用者を支えている
	内容	当事業所は、市内で唯一の精神障害福祉の短期入所事業所であり、在宅生活で課題を抱えている利用者や家族のニーズに応じている。短期入所での生活体験を重ねながら一人暮らしを目指していく利用者や、家族との距離を取ることでほど良い関係を築きたい利用者など、それぞれの目的を達成できるように支援している。職員も、支援の方向性(利用者の視点で支援をする等)、基本行動(笑顔で働く等)、支援のコツ(生活の場なので、関わり過ぎない等)についての考えを共有し、利用者が希望する生活を送ることができるように支援している。
2	タイトル	利用者が自分のペースで自由に過ごせる環境を用意しており、利用者調査では満足度が高くなっている
	内容	利用者が思い思いに自由に過ごしており、自分のペースで静かな環境の中で過ごしている。個室でキッチンなどが備え付けられた居室は、一人暮らしの練習の場としても最適な環境となっている。職員も利用者が一人で過ごせる自由な環境を支援しながら、気楽さとともに大変さも体験できるよう、必要以上に関わりを持たないように努めている。利用者の満足度も高く、利用者からは、「一人暮らしの訓練になる」、「自分の好きなことを静かな環境で過ごせる」、「職員から大切にされていると感じることが多い」等の意見が寄せられている。
3	タイトル	短期入所サービスを利用することで、家族とほどよい距離間を得ることが出来、その後の利用者と家族とのより良い関係性に寄与している
	内容	当事業所では、利用に当たって、「利用者は家族と離れて休息を取りたい」、「将来の単身生活に向けて練習や体験をしたい」、「退院に向けた練習や体験」など、様々な目的を持った利用者を受け入れている。短期入所の利用を通して、家族とのほどよい距離感を得ることができ、アパートでの一人暮らしを始めた利用者やグループホームに入所した利用者もおり、自立生活のきっかけになっている。地域の短期入所事業所として、利用者の自立を支援するとともに、家族との関係性を利用者自身が考えることにもつながっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	現在実施している防災対策に加えて、実践に役立つ事業継続計画を策定していくことに期待したい
	内容	事業計画とあわせて職員体制や備蓄品のチェックを行うなど、災害発生時に備えている。防災計画を作成し、定期的な防災訓練を実施し、利用者も参加している。防災学習会も開催している。一方で、事業継続計画について未策定となっており、今後策定する予定としている。ハード面で想定される被害と対策、再開に至るまでの職員体制や利用者への対応など、必要な事項について検討を進めながら、実践に役立つ内容として計画を策定していくことに期待したい。
2	タイトル	ヒヤリハットの効果的な活用方法を検討し、利用者の安全向上につながる取り組みを図っていくことに期待したい
	内容	事業所では、「急変時の対応マニュアル」や「事故発生時の対応手順」を定めて、いざという時に適切に対応できるようにしている。一方で、事故予防・再発防止への取り組みとして、ヒヤリハット報告書の運用を行っているが、事業所では、その活用において改善の余地があるとしている。ヒヤリハットの提出強化期間を設定したり、ヒヤリハットの内容を集計・分析して傾向を把握するなど、より効果的な活用方法について検討していくことに期待したい。
3	タイトル	さらなるニーズに応え、運営の安定化を達成していくために、利用日の平準化につながるような工夫を検討していくことに期待したい
	内容	事業所は1名定員で運営しており、宿直者も配置するなど、個別対応の充実化が図られている。利用者は、プライバシーや自由が保障されているだけでなく、安全についても配慮された中で生活を送ることができている。一方で、利用希望が集中して断らざるを得ない日が生じてしまうと、ニーズに応えられないだけでなく、運営にもマイナスの影響を与える状況になってしまう。今後は、さらなるニーズに応え、運営の安定化を達成していくために、利用日の平準化につながるような工夫を検討していくことに期待したい。